

式 辞

暖かい春の日射しの輝く季節となり、校内の木々の緑も日に日にその濃さを増しつつある今日の良き日、多数のご来賓のご臨席と保護者のご列席をいただき、ここに第七十三回入学式を挙行できますことは、私たち教職員一同、この上ない喜びであります。

新入生の皆さん、入学おめでとう。また、本日まで新入生の成長を支え、今日のこの日を待ち望まれていた保護者の皆さん、ご入学、おめでとうございます。

晴れて難関を突破して、栄光の合格を勝ち取った皆さんの本日のこの喜びは、皆さん一人ひとりの努力の賜であると同時に、ご家族、教えを受けた先生など、多くの方々の支えがあったことを忘れてはなりません。本日から高校生活の新しい第一歩を踏み出すに当たり、これらの方々のご恩に報いるためにもより一層の努力を期待します。

本校は明治三十二年に創立された宮崎県立延岡中学校をその始まりとし、併せて延岡高等女学校の誇り高い伝統を引き継いで、来年創立百二十年を迎える、県内でも屈指の伝統校であります。卒業生には国民的歌手の若山牧水、日本初の民間人パイロットとして数々の偉業を成し遂げた後藤勇吉をはじめとして、幾多の人材を輩出してきた歴史を持っています。

近年はさらに本校に対する地域の期待が高まり、県北の優秀な人材が集まってくる中で、年々伸びてきた進学実績も今年また飛躍的に向上しました。伝統を大切にしながら、伝統に甘んじることなく、本校に寄せられた地域社会の要請に応えることこそが本校の使命であり、生徒一人ひとりが高い志を持って挑戦していく学校づくりを皆さんと一緒に推し進めようと考えています。

さて、新入生の皆さんに、高校入学という節目に当たり、次のメッセージを贈ります。それは、「学校とは間違えるところである」というものです。

私は校長として皆さんに、この延高という舞台で伸び伸びと成長する三年間を過ごしてほしいと願っています。成長とは何か。それは「今までできなかったことができるようになること」を意味します。そのためには、今できないことにこそ、勇気を持って挑戦することが必要です。しかしながら、最初から全て成功するはずがありません。我々は、失敗を何度も重ねながらそこから学び、成功への階段を上っていくのです。

その前提として、「学校は間違える場所である」という認識を、全員で共有する必要があります。まちがうのは当然のことであり、大事なはその失敗から反省点を見だし、次の挑戦へと繋げることなのです。

セブンドリーマーズという会社の、阪根信一社長は、「成功とはトラブルの連続を乗り切

ることである。従って、成功する人が必ずしも賢いわけではない」と述べています。

阪根氏は、人工衛星ハヤブサの製作に携わり、現在、世界初の全自動衣類折り畳み機を開発しています。彼の開発の基準は三つ。まず世の中に存在しないもの。次に人々の暮らしを豊かにするもの。そして最後に挑戦のハードルが極めて高いもの。

私はこの三つのうち、特に最後の、ハードルが高いものという目標に心惹かれます。敢えて高い目標を掲げ、失敗することを当たり前とし、失敗の連続の後の成功を目指すというこの姿勢こそ、我々が目指す学びの姿ではないでしょうか。

新入生の皆さん、そして在校生の皆さんにも、繰り返してメッセージを贈ります。「学校は間違えるところである」だからこそ、高い目標を掲げ、それに挑戦する日々をこの延高で送ってください。皆さんには、その挑戦を支える仲間・先輩・先生方がいるのですから。

最後に、新入生の保護者の皆様一言御挨拶を申し上げます。家庭教育と学校教育とは、子供を教え育てる上で、まさに車の両輪であります。子供達が大人への仲間入りを始めるこの時に、学校と家庭とが協力して、温かくかつ厳しく接していくことが、必ずや人間的成長や学力の向上につながることを、共に肝に銘じたいと思います。

延高のよき伝統の一つに、教職員と生徒の強い信頼関係があります。それは延高の長い歴史の中で培われてきたものです。その良さを生かして私たち教職員一同は、お預かりした生徒一人一人を大切にしながら、三年間教え導くことをお約束いたします。

それでは、新入生の皆さんが、失敗を恐れず挑戦の日々を、この延高で送られるよう、心から祈念しまして、式辞といたします。

平成三十年四月十日

宮崎県立延岡高等学校 校長 宮野原 章史